

[情報提供]

- がん診療連携拠点病院等の整備指針の改正およびスケジュールについて情報共有
- 令和8年度 of 取組計画について情報共有（がん診療連携拠点病院等、がんゲノム医療中核拠点病院等、小児がん拠点病院等の整備指針改正等）

[議題1]がん登録部会の今後の開催方法について

- 今後、がん登録部会はがん医療部会と合同開催を行う
➢承認

[議題2]第4期奈良県がん対策推進計画の中間評価について

- 以下の3分野について、効果的に評価を実施するため、5つの重点的な【個別施策】に絞り評価を実施。
- 国第4期がん対策推進基本計画の中間評価の手法に倣い、部会内では実行（プロセス）評価、効果（インパクト）評価、総合評価を中心に評価を実施。
➢承認※評価の概要は下記のとおり

分野	個別施策	実行 (プロセス) 評価	効果 (インパクト) 評価	総合 評価	主な委員意見	主な変更点・改善点 ※全分野での共通内容：次期計画策定に向け、より適切な指標や施策について、今後協議・検討していく。
③がん医療 の充実	拠点病院等・支援病院の体制整備の充実	予定通り 実行されている	効果を出 している	維持 すべき	・追加する【中間】アウトカム指標について、造血器腫瘍の観点から、日本血液学会の認定施設数を加えてほしい。	・【分野別】アウトカム指標の「5年相対生存率」をより適切な指標「5年純生存率」に置き換える。 ・質に関する評価のため【中間】アウトカム指標に「奈良県内の各学会の認定施設数」を加える。 ・【個別施策】アウトプット指標において、評価に適さない指標の代わりに、質を示す「診療従事者の研修会の開催回数」を指標に追加する。
	手術療法、放射線療法、薬物療法の提供体制の充実	ほぼ実行 されている	効果を出 している	維持 すべき	・治療内容自体が変わってきているため、単に実施件数の増減等では評価できないのではないかと。 ・がんに関わる看護師や薬剤師などの人的資源の増加を目指していく必要がある。	
④がん と診断された 時からの緩和 ケア	拠点病院等・支援病院における質の高い緩和ケア提供体制の整備	予定通り 実行されている	効果を出 している	強化 すべき	・国が開催指針を定めるPEACE研修会の受講率のみでは質の高い緩和ケア提供体制の整備の評価として適さない。研修受講者のその後について、フォローアップ研修等による調査などが必要である。 ・がん患者の気持ちのつらさに関しては、質を評価するため、緩和ケアの対象となる患者へのアンケートなどによりスコア化できれば良い。	・【中間】アウトカム指標において、量的な取組については一定の評価ができるものの、【分野別】アウトカム指標の達成につながっていない可能性が考えられ、精神的・心理的苦痛への対応強化の必要があるため、指標に「精神的・心理的苦痛を抱える患者割合」を追加する。
⑤地域 連携	がん患者の口腔ケアの医科歯科連携の充実	予定通り 実行されている	とても効果 を出している	維持 すべき	・奈良県におけるがん患者診療に関わる医科歯科連携マニュアルを改定し、病診連携を強化できれば良い。	・奈良県におけるがん患者診療に関わる医科歯科連携マニュアルを改定し、病診連携強化を図り、マニュアル活用状況の確認を行っていく。
	在宅緩和ケアに携わる人材の育成	予定通り 実行されている	とても効果 を出している	維持 すべき	・在宅緩和ケア研修会について、同じ内容で何度も開催するより、一度により多くの方が参加できるよう、医師会との日程調整や実地とオンラインのハイブリッド開催をすれば良いと考える。 ・評価材料として在宅医療充実体制加算の施設数のデータを収集すれば良いと考える。	・行政と医療機関が別々で実施している在宅緩和ケア研修会等を一本化し、診療所の医師等の関係者が効果的・効率的に研修を受講できる環境を整える。また、併せて【個別施策】アウトプット指標について、「がん性疼痛のための医療用麻薬適正使用推進講習会の受講者数」に一本化する。